2012 年 11 月 19 日

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長　福島保

首都圏保護者の中学受験に関する意識調査

公立中高一貫校の増加により、中学受験をする層は多様化
「中学受験する・しない」、小 3 で半数の保護者が検討中

株式会社ベネッセコーポレーション（本社：岡山市、以下ベネッセ）の社内シンクタンク「ベネッセ教育研究開発センター」では、2012 年 9 月に、首都圏の公立小学校 3 年生から 6 年生の子どもをもつ父親・母親 5,256 名を対象に、「首都圏保護者の中学受験に関する意識調査」を実施しました。本調査は、中学受験の実態を捉えるとともに、その課題を明らかにすることを目的に行ったものです。

＊2007 年に全国を対象にした類似内容の形式の異なる「中学校選択に関する調査」を行っており、一部、参考資料として掲載しています。

本調査の主な結果は、以下の通りです。

1. 中学受験予定の保護者の 3 割強が、公立中高一貫校を第一志望にしており、中学受験を検討する層は多様化している。

① 今回の調査では、中学受験をさせる予定の保護者は、小学校 3～6 年生全体の 17.5％であった（6 年生のみでは 23.3％）。そのうち、52.8％が私立中学校を、7.5％が国立大学の附属中学校を、33.9％が公立中高一貫校を第一志望にしている。また、中学受験をさせる予定の保護者の約 2 割が、私立中学校と公立中高一貫校の両方の受験（受検）を検討している。

② 公立中高一貫校は、私立中学校に比べて、さまざまな層に選ばれている。私立中学校第一志望者は、世帯年収 1000 万円以上が 40.3％、400 万円未満が 3.5％、父親・母親の学歴がともに大学・大学院卒である比率が 45.3％であるのに対し、公立中高一貫校第一志望者は、世帯年収 1000 万円以上が 17.6％、400 万円未満が 6.7％、父親・母親の学歴がともに大学・大学院卒である比率が 28.2％である。

2. 小学校 3 年生時点では「中学受験しない」と決めている保護者は 5 割にとどまり、小学校 6 年生まで、「受験する・しない」の検討は長期化している。

①小学校 3 年生で、中学受験をさせないと回答した保護者は約 5 割（48.2％）にとどまり、約 4 割（38.8％）は「まだ決めていない」と保留にしている。また、小学校 6 年生で「まだ決めていない」と回答した人も 1 割弱（9.1％）いる。

②中学受験をさせる予定の保護者（6 年生）のうち 4 割強（44.3％）が、受験をやめさせようと思ったことが「あった」（「何度もあった」＋「時々あった」）と回答している。一方で、中学受験をさせない予定の保護者（6 年生）のうち 2 割強（22.6％）が、受験をさせようと思ったことが「あった」（「何度もあった」＋「時々あった」）と回答している。

③中学受験をさせる予定の保護者が受験をやめようと思った理由の上位には、子どものやる気、疲れ、ストレス、生活のゆとりなど、子どもの負担に関することがあがっている。それに次いで、受験準備費用、中学入学後の授業料など金銭面の負担や、親子関係の悪化に関することがあがっている。

3. 中学受験予定の保護者は、子どもの進路に強い希望を持ち、その実現に向けて、早期の準備の必要性を感じている。

① 「学歴があっても、社会で通用する力が身についていなければ意味がない」などと、9 割以上の保護者が捉えている(「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の%)。

②さらに、中学受験をさせる予定の保護者は、「社会で必要とされる力を中高生のうちから積極的につけさせたい」「多少無理をしても子どもの教育にはお金をかけたい」「子どもには一流の大学に入ってほしい」など、進路への強い希望を持ち、早い段階からの準備の必要性を感じている。

4. 中学受験予定の父親は、子どもの学習への関わりが強い。

①中学受験を最初に言い出した人は、母親が約半数(52.3%)、子ども自身が 22.1%、父親が 23.8%であり、母親が主導している比率が高い。

②中学受験をさせる予定の父親は、中学受験をさせない予定の父親に比べて、「テストの点数を確認する」(15.5 ポイント差)、「勉強している内容を確認する」(13.3 ポイント差)、「勉強の意義や大切さを伝える」(16.8 ポイント差)など、子どもの学習への関わりが強い(「よくある」＋「時々ある」の%)。母親は、「勉強の計画を一緒に立てる」(22.9 ポイント差)、「勉強の計画を管理する」(23.2 ポイント差)、「中学校に関する情報を収集する」(61.4 ポイント差)などで、中学受験予定による差が大きい(「よくある」＋「時々ある」の%)。

今回の調査からは、先の見えない社会において、子どもが少しでも良い教育を受けられるよう、早いうちから準備をして中学受験を選択する保護者の姿が浮き彫りになりました。中学受験は、主に保護者(特に母親)主導で受験が始まり、父親も含めた父母子という家族ぐるみの取り組みになっているといえます。

さらに、1999 年に設立が始まった公立中高一貫校の増加に伴い、現在多様な層が中学受験を考えるようになっていることもわかります。公立中高一貫校が、より多くの家庭にとって、選択の機会を提供することになったことは評価すべき点といえます。

一方で、より多様な選択肢ができたこともあり、保護者の負担や悩みが、子どもが小学校生活の約半分にあたるほど長期にわたっていることについては課題であるといえます。子どもにとって小学校 6 年間はどのような時期であるのか、またどのような成長・発達の環境を保障すべきなのかなどを再考するとともに、中学受験の長期にわたる負担を軽減することについても検討する必要があるのではないでしょうか。

このリリースに関するお問い合わせ先
株式会社ベネッセコーポレーション　広報部　(三田村, 坂本、濱野)
TEL 042-356-0657　FAX　042-356-0722

■調査概要

調査テーマ	首都圏の保護者の中学受験（受検）に関する意識と行動
調査方法	インターネット調査
調査時期	2012 年 9 月
調査対象	首都圏の（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）公立小学校 3 年生から 6 年生の子どもをもつ保護者 5,256 人（父親 2,687 人、母親 2,569 人）。学年別の内訳は、3 年生 1,321 人、4 年生 1,341 人、5 年生 1,294 人、6 年生 1,300 人。 【調査対象について】 インターネット調査会社の約 110 万人のモニター母集団のうち、首都圏の子どもをもつ既婚者（28～54 歳）約 14 万人に対して予備調査を実施。このうち、小学 3 年生から 6 年生の子どもをもつ父親・母親、約 7,400 人にアンケートの協力を依頼。学年ごとに、保護者の性別、子どもの性別、母親の就業状況別の比率に応じたサンプルが集まった時点で調査を終了した。
調査項目	中学受験の予定／中学受験をさせる理由・させない理由・迷っている理由／中学受験について思うこと／子どもの学習時間／子どもの学校外の学習機会／子どもとすること・話す内容・学習へのかかわり／子どもの将来像／子育て・教育の悩み／教育費／教育観・社会観など

■主な調査結果

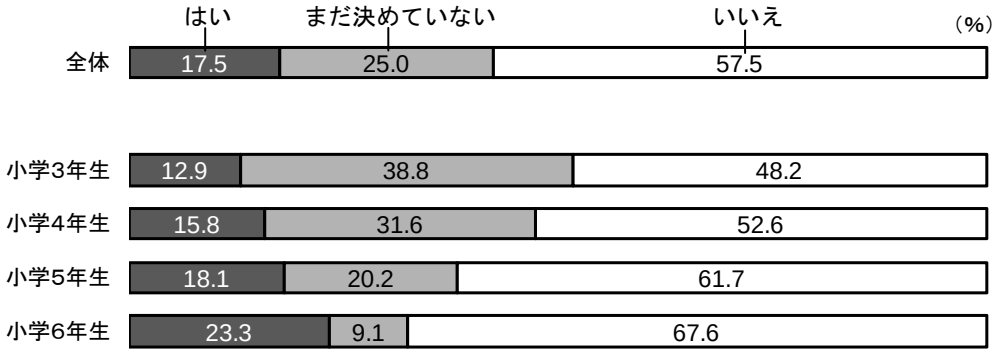
1. 中学受験予定の保護者の 3 割強が、公立中高一貫校を第一志望にしており、中学受験を検討する層は多様化している。

① 今回の調査では、中学受験をさせる予定の保護者は、小学校 3～6 年生全体の 17.5％であった（6 年生のみでは 23.3％）。そのうち、52.8％が私立中学校を、7.5％が国立大学の附属中学校を、33.9％が公立中高一貫校を第一志望にしている。また、中学受験をさせる予定の保護者の約 2 割が、私立中学校と公立中高一貫校の両方の受験（受検）を検討している。

② 公立中高一貫校は、私立中学校に比べて、さまざまな層に選ばれている。私立中学校第一志望者は、世帯年収 1000 万円以上が 40.3％、400 万円未満が 3.5％、父親・母親の学歴がともに大学・大学院卒である比率が 45.3％であるのに対し、公立中高一貫校第一志望者は、世帯年収 1000 万円以上が 17.6％、400 万円未満が 6.7％、父親・母親の学歴がともに大学・大学院卒である比率が 28.2％である。

図 1　中学受験をさせる予定（全体、学年別）

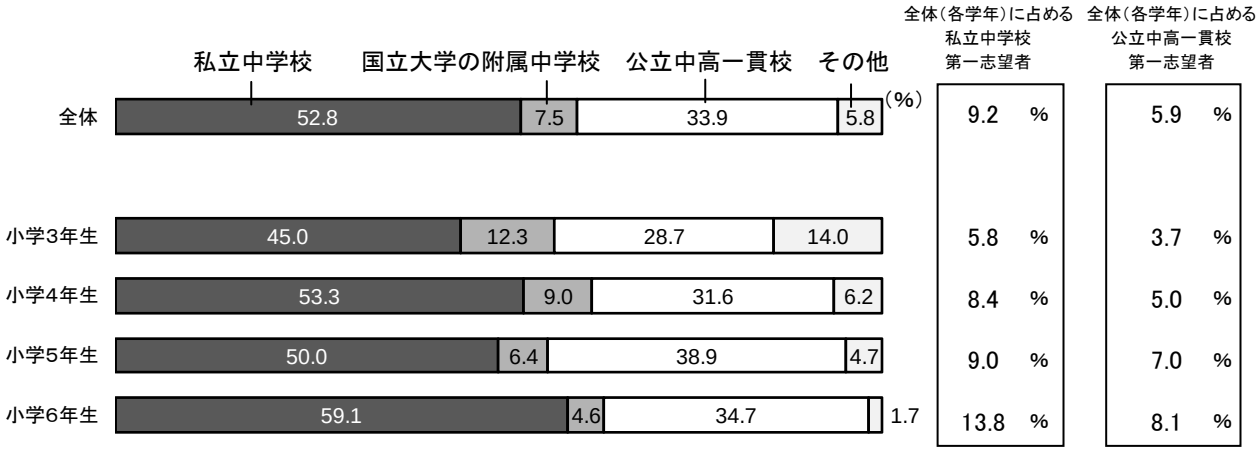
Q【3～6 年生の保護者】お子様に、中学受験をさせる予定ですか。



※中学受験には、公立中高一貫校の受検も含めている。

図２　中学受験の第一志望校（全体、学年別）

Q【3～6 年生の受験させる保護者】 第一志望の学校は、どのような中学校ですか。

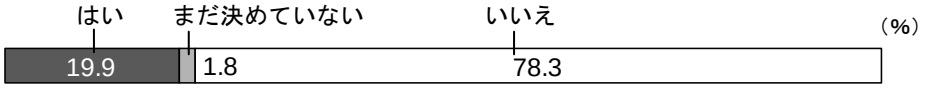


※「その他」は、「その他」「まだ決めていない・わからない」の合計。

【参考】「中学校選択に関する調査」2007 年

図①　中学受験をさせる予定（6 年生）

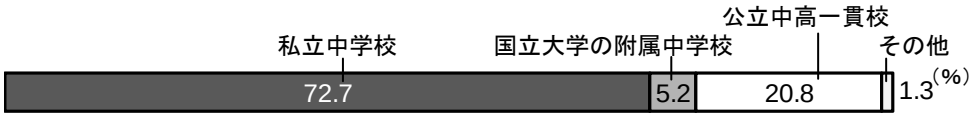
Q【首都圏の 6 年生の保護者】 お子様に、中学受験をさせる予定ですか。



※無回答・不明を除いて算出している。

図②　中学受験の第一志望校（6 年生）

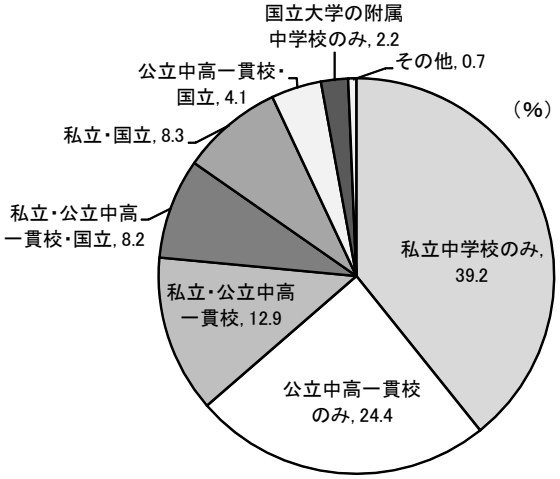
Q【首都圏の 6 年生の受験させる保護者】 第一志望の学校は、どのような中学校ですか。



※「その他」は、「その他」「わからない」「まだ決めていない」の合計。無回答・不明を除いて算出している。

図３　中学受験をさせようと思う中学校（全体）

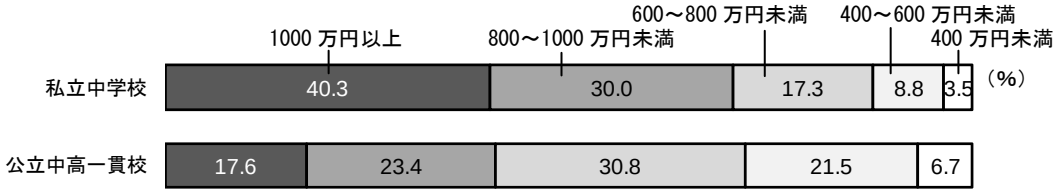
Q【3～6 年生の受験させる保護者】 受験させようと思う学校は、どのような中学校ですか（複数回答）。



※複数回答をもとに、「まだ決めていない・わからない」を除いて算出している。
「その他」は、「その他」の学校を受験させようと思っている人の%。

図 4　中学受験をさせる保護者の世帯収入（第一志望校別）

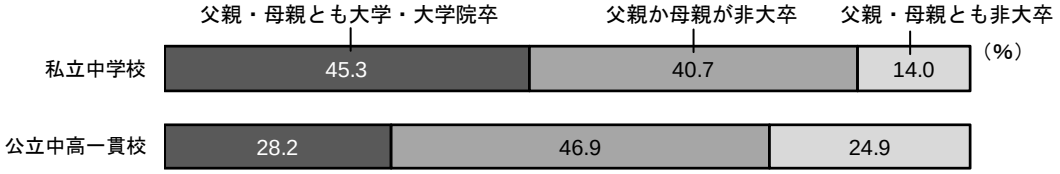
Q【3～6 年生の受験させる保護者】1 年間の世帯全体の収入はどれくらいですか。



※中学受験の第一志望校を「国立大学の附属中学校」「その他」と回答した人は省略している。

図 5　中学受験をさせる保護者の学歴（第一志望校別）

Q【3～6 年生の受験させる保護者】あなたと配偶者が最後に卒業した学校は、次のうちのどれにあたりますか。



※あなたと配偶者の回答をもとに、「その他」「分からない・答えたくない」を除いて算出している。
「非大卒」には「中学校」「高等学校」「専門学校・各種学校」「短期大学」を含む。
※中学受験の第一志望校を「国立大学の附属中学校」「その他」と回答した人は省略している。

2.　小学校 3 年生時点では「中学受験しない」と決めている保護者は 5 割にとどまり、小学校 6 年生まで、「受験する・しない」の検討は長期化している。

①　小学校 3 年生で、中学受験をさせないと回答した保護者は約 5 割（48.2%）にとどまり、約 4 割（38.8%）は「まだ決めていない」と保留にしている。また、小学校 6 年生で「まだ決めていない」と回答した人も 1 割弱（9.1%）いる。（図 1 参照）

②中学受験をさせる予定の保護者（6 年生）のうち 4 割強（44.3%）が、受験をやめさせようと思ったことが「あった」（「何度もあった」＋「時々あった」）と回答している。一方で、中学受験をさせない予定の保護者（6 年生）のうち 2 割強（22.6%）が、受験をさせようと思ったことが「あった」（「何度もあった」＋「時々あった」）と回答している。

③中学受験をさせる予定の保護者が受験をやめようと思った理由の上位には、子どものやる気、疲れ、ストレス、生活のゆとりなど、子どもの負担に関することがあがっている。それに次いで、受験準備費用、中学入学後の授業料など金銭面の負担や、親子関係の悪化に関することがあがっている。

図 6　中学受験をやめさせようと思ったこと（全体、学年別）

Q【3～6 年生の受験させる保護者】あなたは、これまでお子様の中学受験をやめさせようと思ったことがありますか。

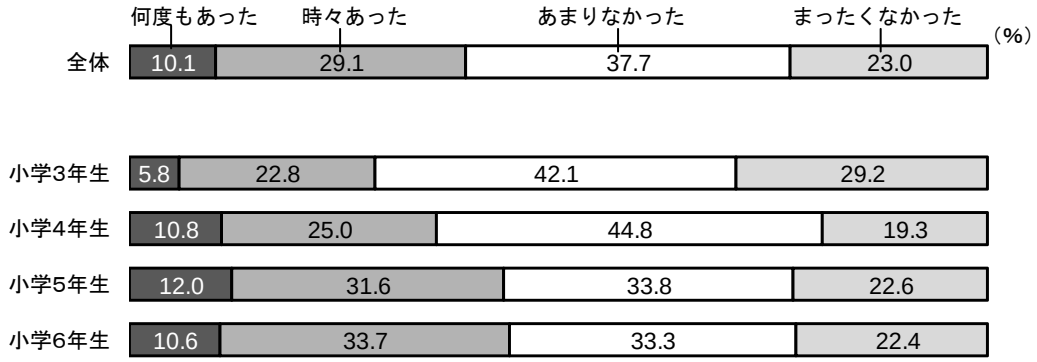
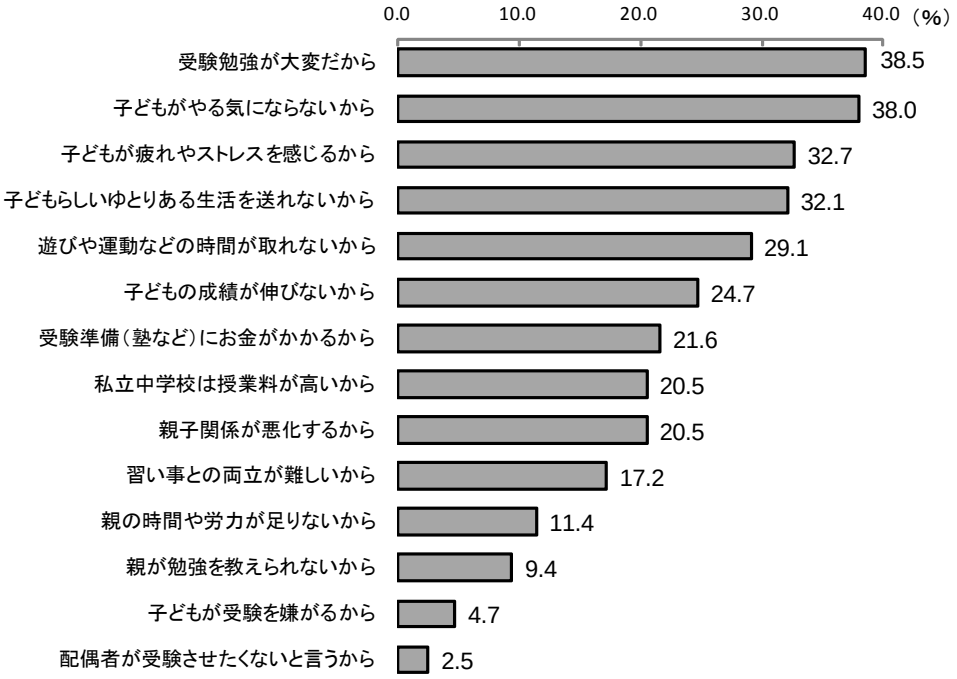


図７　中学受験をやめさせようと思った理由（全体）

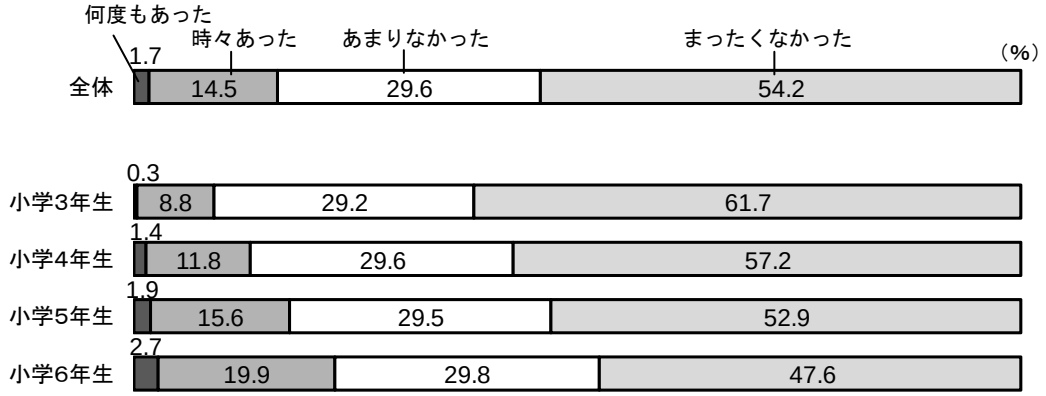
Q【3～6 年生の受験をやめさせようと思ったことがあった保護者】 中学受験をやめさせようと思ったのはなぜですか。



※「あなたは、これまでお子様の中学受験をやめさせようと思ったことがありますか」の問いに、「何度もあった」「時々あった」と回答した人のみ対象。
※「とてもそう」の%。

図８　中学受験をさせようと思ったこと（全体、学年別）

Q【3～6 年生の受験させない保護者】 あなたは、これまでお子様に中学受験をさせようと思ったことがありますか。



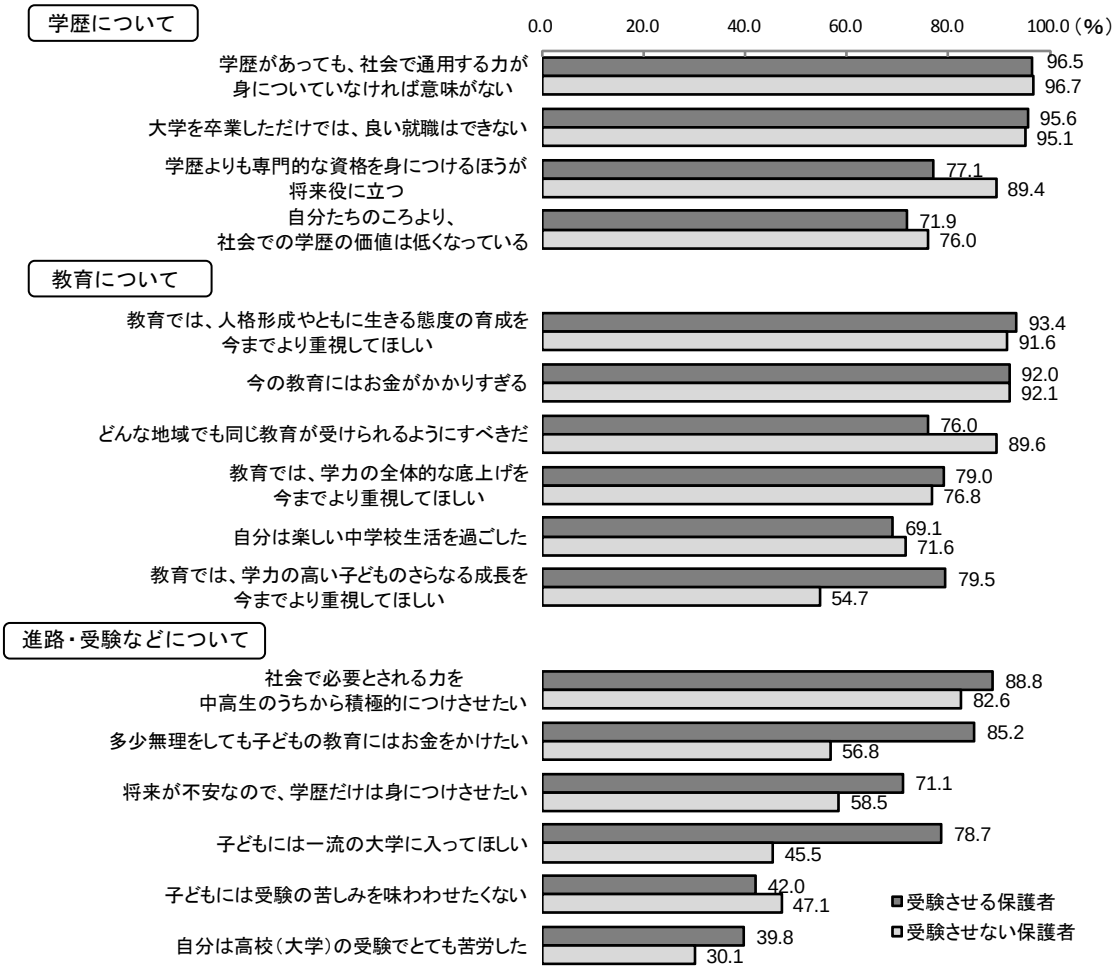
3. 中学受験予定の保護者は、子どもの進路に強い希望を持ち、その実現に向けて、早期の準備の必要性を感じている。

① 「学歴があっても、社会で通用する力が身についていなければ意味がない」などと、9 割以上の保護者が捉えている（「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の%）。

②さらに、中学受験をさせる予定の保護者は、「社会で必要とされる力を中高生のうちから積極的につけさせたい」「多少無理をしても子どもの教育にはお金をかけたい」「子どもには一流の大学に入ってほしい」など、進路への強い希望を持ち、早い段階からの準備の必要性を感じている。

図 9　教育に関する意見が考え（受験予定別）

Q【3～6 年生の保護者】 あなたは、教育に関する次のような意見や考えについて、どのように思いますか。



※「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の%。

※「お子様に、中学受験をさせる予定ですか」の問いに「まだ決めていない」と回答した人の回答は省略している。

4.　中学受験予定の父親は、子どもの学習への関わりが強い。

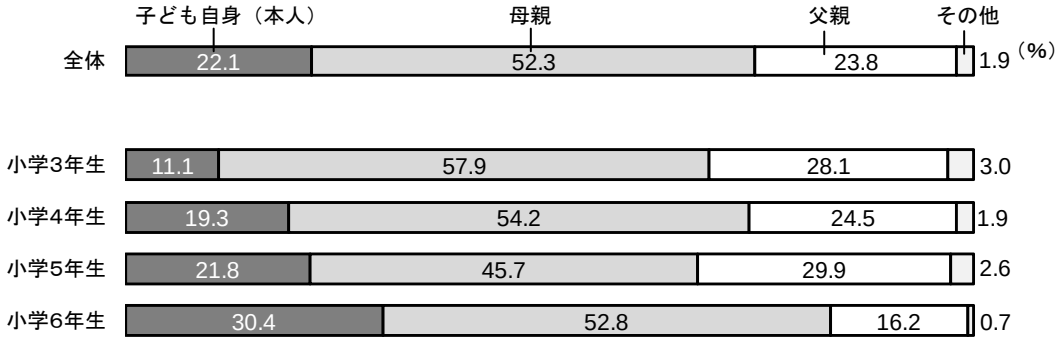
①中学受験を最初に言い出した人は、母親が約半数（52.3%）、子ども自身が 22.1%、父親が 23.8%であり、母親が主導している比率が高い。

②　子どもを中学受験させる予定の父親は、受験させない予定の父親に比べて全体として子どもの学習への関わりが強い。特に「子どもにあった勉強法を考える」（18.9 ポイント差）、「学校や塾のノートに目を通す」（18.0 ポイント差）等で差が大きい。このほか「勉強の意義や大切さを伝える」（16.8 ポイント差）も子どもが受験する父親の役割である。母親は「勉強の計画を一緒に立てる」（22.9 ポイント差）、「勉強の計画を管理する」（23.2 ポイント差）などで差が大きい。

（注）文中の「ポイント差」は、受験予定層と非予定層の「よくある＋時々ある」の%差を示したもの。

図 10　中学受験を最初に言い出した人（全体、学年別）

Q【3～6 年生の受験させる保護者】 中学受験を、最初に思った（言い出した）人はどなたですか。

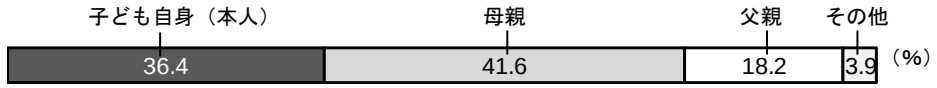


※「その他」は、「小学校の先生」「塾の先生（塾のアドバイス）」「その他」の合計。

【参考】「中学校選択に関する調査」2007 年

図③　中学受験を最初に言い出した人（6 年生）

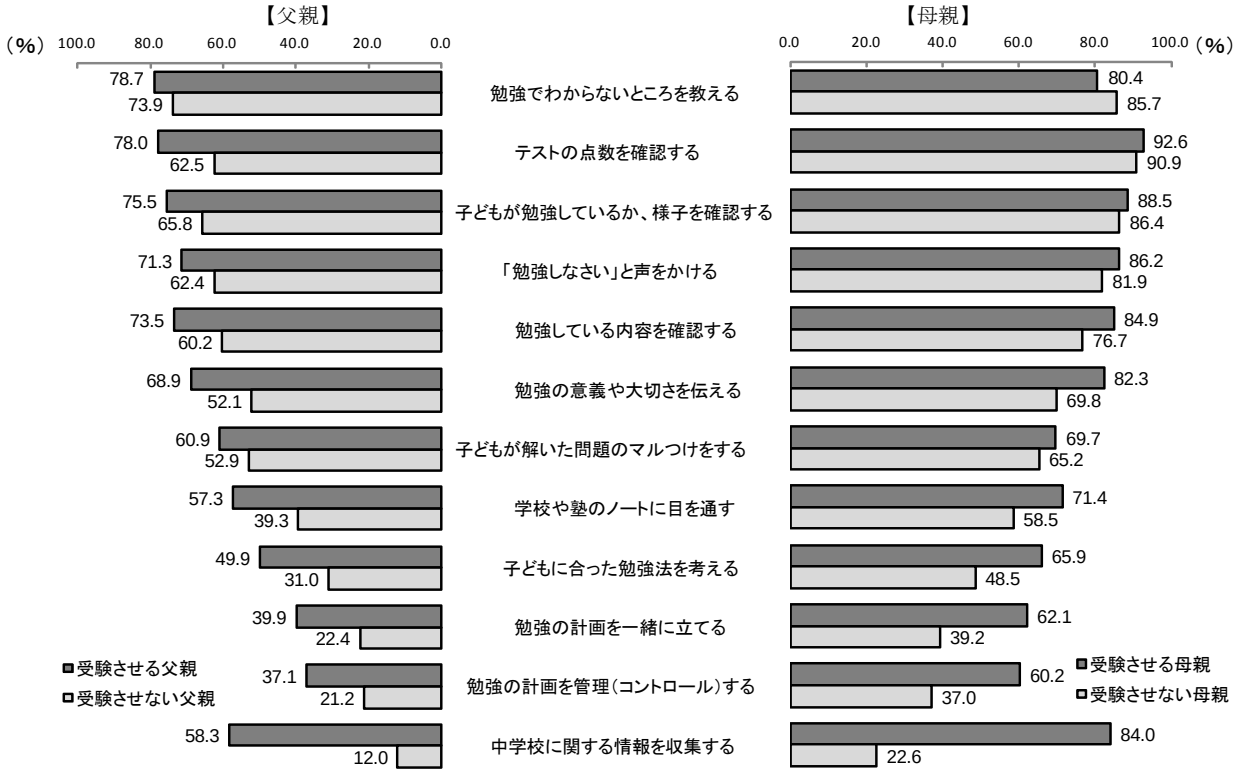
Q【首都圏の 6 年生の受験させる保護者】 中学受験を、最初に思った（言い出した）人はどなたですか。



※「その他」は、「小学校の先生」「塾の先生（塾のアドバイス）」「その他」の合計。
無回答・不明を除いて算出している。

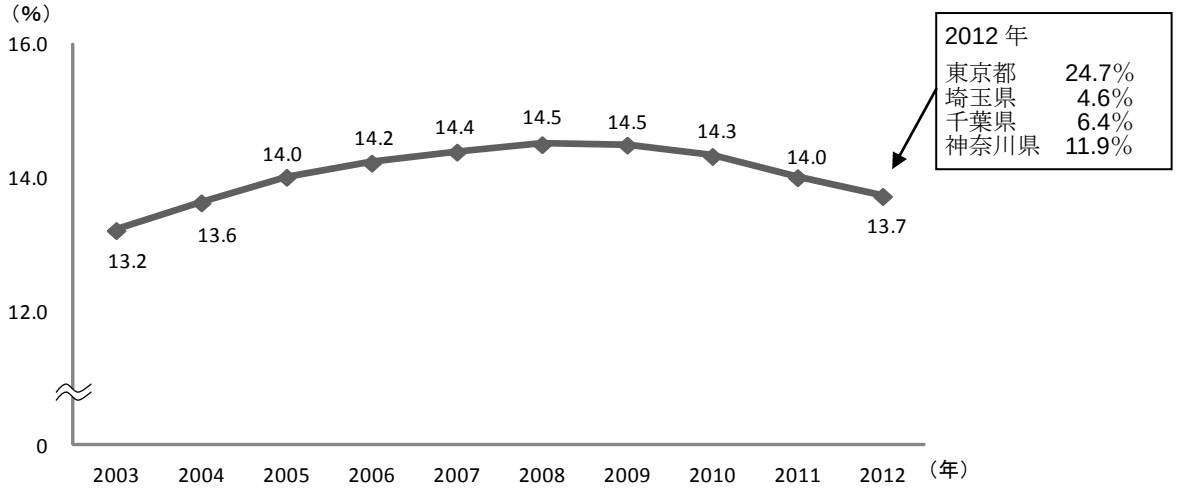
図 11　ふだんの子どもの学習への関わり（父母別・受験予定別）

Q【3～6 年生の保護者】 あなたは、ふだんお子様の学習に関して、次のようなことをすることがありますか。



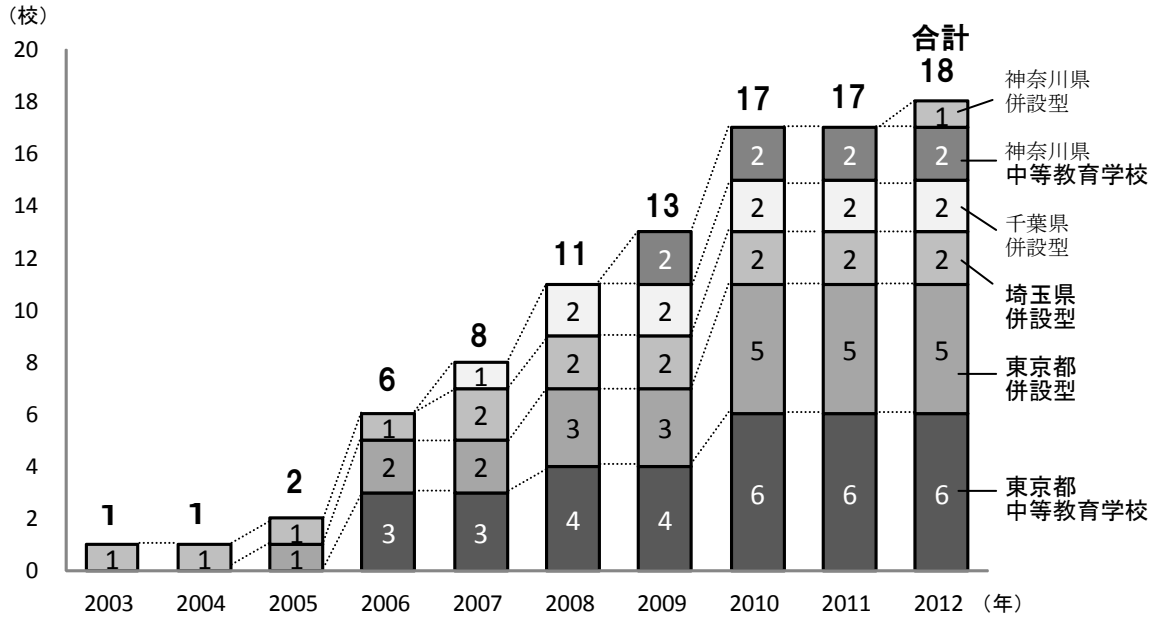
※「よくある」＋「時々ある」の%。
※「お子様に、中学受験をさせる予定ですか」の問いに「まだ決めていない」と回答した父親・母親の回答は省略している。

【参考】 資料① 首都圏の私立中学校の生徒比率の推移



※「学校基本調査」（文部科学省）より算出。

【参考】 資料② 首都圏の公立中高一貫校数（併設型・中等教育学校）の推移



※「学校基本調査」（文部科学省）より算出。

※本調査結果概要については、以下に掲載中。また 12 月中に「報告冊子」を掲載予定。

http://benesse.jp/berd/center/open/report/chugaku_jyuken/2012/index.html

※参考「中学校選択に関する調査」（2007 年 12 月実施）

http://benesse.jp/berd/center/open/report/chugaku_sentaku/2008_hon/index.html

調査テーマ	小学 6 年生とその保護者の中学校選択に関する意識と行動
調査方法	郵送法による自記式質問紙調査
調査対象	全国の公立小学校に通う 6 年生 1,501 人とその保護者 1,504 人 ※今回は、このうち首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の保護者 393 人の調査結果を掲載。

●Benesse 教育研究開発センターの活動／Benesse 教育情報サイトでの情報提供について

- Benesse 教育研究開発センター（http://benesse.jp/berd/）では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。
- Benesse 教育情報サイト（http://benesse.jp/）では、ベネッセが保有する教育関連のデータを公開しています。